

2018年（平成30年） 8月3日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

7/19~7/25のNYMEX・WTIは、67.89~70.46ドルの範囲で推移した。

7月26日は、前日のイエメン・フーシ派による紅海におけるサウジ・タンカーへの攻撃を受けて、ファリハ・エネルギー相がバブ・エル・マンデブ海峡経由の原油輸出を見合わせる旨発表したこと、トランプ大統領とユンケルEU委員長が会談し貿易戦争回避で合意したことから、買われ、3日続伸した。9月限の終値は前日比0.31ドル高の69.61ドルだった。

週末27日は、前日の要因を引き継いだものの、利益確定やポジション調整の売りに押され、4日ぶりに反落した。ペカーヒューズ社の国内石油掘削リグ稼働数が861基(前週比3基増)の発表も売りを誘った。9月限の終値は前日比0.92ドル安の68.69ドルだった。

週明け30日は、ドル安・ユーロ高による先物原油の割安感から買い進まれるとともに、サウジに続き、クウェートもバブ・エル・マンデブ海峡経由の原油出荷停止を検討中との報道もあり、大幅に反発、約1週間ぶりに節目の70ドル台を回復した。ただ、ジェンスケープ社によるクッシングの原油在庫の増加報道により上値はやや削られた。9月限の終値は前日比1.44ドル高の70.13ドルだった。

31日は、ロイターによると7月のOPEC産油量は日量3264万バレルと前月比日量7万バレル増の2018年の最高を記録するなど供給ひっ迫感が後退、トランプ大統領もイランのロウハニ大統領に対話姿勢を示すなど緊張の緩和、ドル高・ユーロ安の進行もあって、大幅に反落した。9月限の終値は前日比1.37ドル安の68.76ドルとなった。

8月1日は、前日の需給ひっ迫感の後退に加え、EIAの在庫週報で、米国原油在庫が予想外の積み増しとなり、ドル高・ユーロ安の進行もあって、続落した。9月限の終値は前日比1.10ドル安の67.66ドルとなった。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(9月渡し)は、前週70.70~72.90ドルの範囲で推移した。7月26日73.20ドル、27日73.50ドル、30日73.30ドル、31日73.60ドル、8月1日72.10ドルで推移した。

為替は、前週110.96~112.76円の範囲で推移した。7月26日110.72円、27日111.12円、30日111.11円、31日111.01円、8月1日111.84円で推移した。

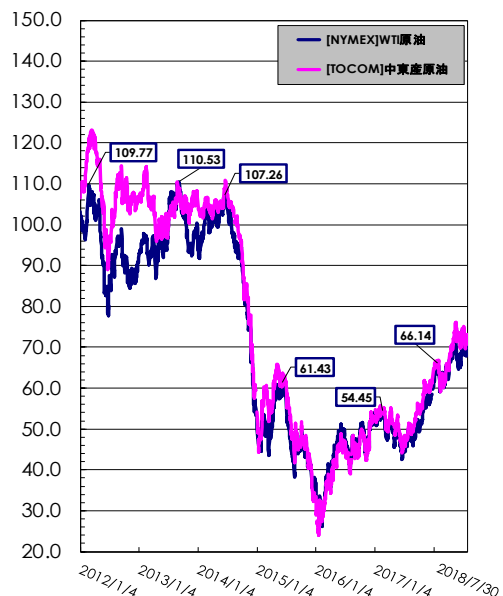
財務省が27日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、7月上旬の原油輸入平均CIF価格は、53,307円/klとなり、前旬を84円下回った。ドル建てでは76.95ドルで前旬比0.10ドル安。為替レートは1ドル/110.15円。

主要元売会社の8月第1週に適用する卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の値上げとなった。原油価格は値上がりし、為替レートの円高がこれをやや相殺したが、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、7月30日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値下がり、軽油も同0.1円の値下がり、灯油は同横ばい(18日ベース)だった。ガソリンは4週ぶりの値下がり、軽油も5週ぶりに値下がりした。この週(7月第5週)の原油コストは大きく値下がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに1.0~1.5円の値下げとなった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	7/22 ~ 7/28	3,479 ▲ 21	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	88.8 ▲ 0.5	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	7/28	12,247 ▼ -978	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	7/30	72.78 ▲ 2.13	▲ 21.8
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	7/30	70.13 ▲ 2.24	▲ 20.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	7月上旬	76.95 ▼ -0.10	▲ 28.60
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	53,307 ▼ -84	▲ 19,118
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.15 ▲ 0.01	▲ 2.26
	外国為替TTSレート (¥/\$)	7/30	112.11 ▼ -0.15	▼ -0.76

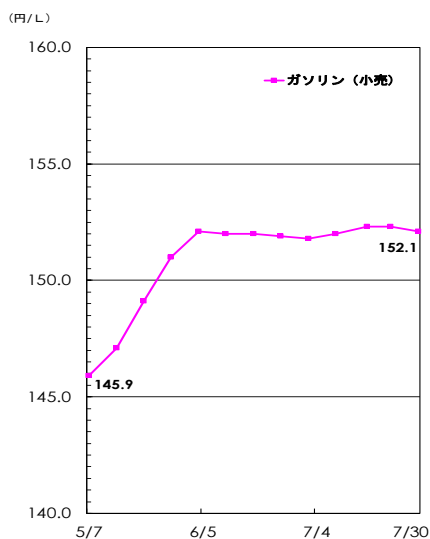
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/22 ~ 7/28	1,081 ▲ 5	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,091 ▲ 48	▲ -	
	輸出	"	41 ▲ 3	▼ -	
	在庫	7/28	1,483 ▼ -50	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/24 ~ 7/30	67.0 ▲ 0.2	▲ 17.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/24 ~ 7/30	64.7 ▲ 1.1	▲ 15.5
		(TOCOM/中部)	7/30	63.0 ➡ 0.0	▲ 13.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/30	152.1 ▼ -0.2	▲ 21.1	

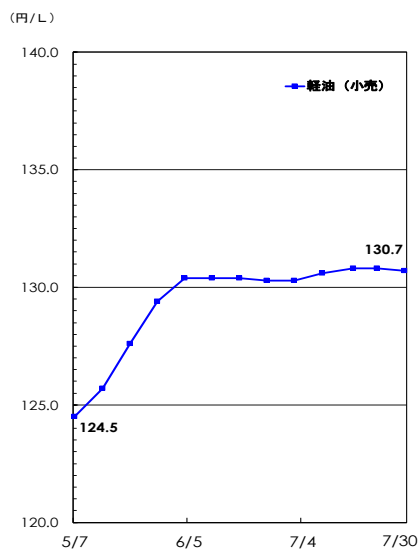
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

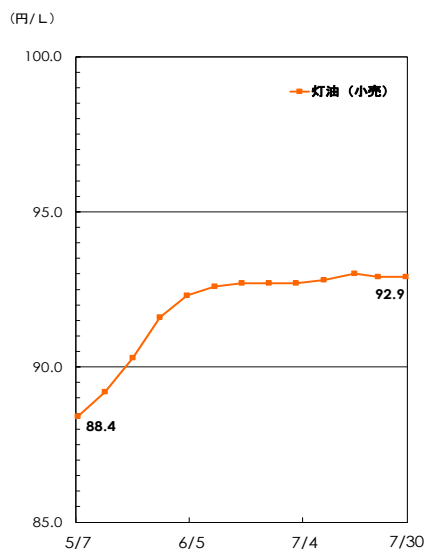
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/22 ~ 7/28	800 ▲ 49	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	678 ▲ 107	▲ -	
	輸出	"	121 ▼ -68	▼ -	
	在庫	7/28	1,447 ▲ 1	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/24 ~ 7/30	68.3 ▼ -0.9	▲ 20.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/24 ~ 7/30	69.0 ▼ -1.2	▲ 21.0
		(TOCOM/中部)	7/30	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/30	130.7 ▼ -0.1	▲ 20.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/22 ~ 7/28	188 ▲ 35	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	64 ▼ -11	▼ -	
	輸出	"	40 ▲ 35	▲ -	
	在庫	7/28	1,704 ▲ 84	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/24 ~ 7/30	67.5 ▼ -0.8	▲ 19.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/24 ~ 7/30	67.3 ▲ 0.8	▲ 19.6
		(TOCOM/中部)	7/30	69.0 ➡ 0.0	▲ 21.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/30	92.9 ➡ 0.0	▲ 16.8	



■ 関連情報

1 海外/原油

8月1日のNYMEX市場WTI原油は、前日からの需給ひっ迫感の後退、ドル高・ユーロ安の進行に加え、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、シーズンインしたガソリン在庫も前週比250万バレル減と市場予想(同130万バレル減)を上回る取り崩しになったものの、国内原油在庫が同380万バレル増と市場予想(同130万バレル減)に反し積み増しとなったことから、大幅統落した。9月限の終値は前日比1.10ドル安の67.66ドル、10月限の終値は前日比1.13ドル安の66.50ドルだった。

EIAによると、7月30日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.5セント値上がりの1ガロン2.846ドル(84.2円/ℓ)と

なった。ディーゼルは前週比0.6セント値上がりの3.226ドル(95.4円/ℓ)。ガソリンは2週ぶりの値上がり、ディーゼルは3週ぶりの値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年7月22日~7月28日に休止したトッパー能力は23.8万バレル/日で、前週に対して同値であった。(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は347.9万klと、前週に比べ2.1万kl増加。前年に対しては17.7万klの減少。トッパー稼働率は88.8%と前週に対して0.5ポイントの増加、前年に対しては4.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてA重油が減産となり、その他の油種で増産となった。

ガソリン/0.4%増、ジェット/29.7%増、灯油/22.6%増、軽油/6.6%増、A重油/3.1%減、C重油/8.1%増。今週のC重油の輸入は5.8万kl(前週比3.9万kl増)。軽油の輸出は12.1万kl(前週比6.8万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、軽油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではガソリン、軽油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は109.1万kl(対前週4.6%増)と前週比で2週連続で増加となり、2週連続で100万klを上回った。

ジェット12.6万kl(対前週9.9%減)、灯油6.4万kl(対前週14.9%減)、軽油67.8万kl(対前週18.8%増)、A重油17.2万kl(対前週4.0%減)、C重油38.2万kl(対前週58.1%増)。

(単位:千KL)

	今週 (7/22 ~ 7/28)	前週 (7/15 ~ 7/21)	前週比	
ガソリン	1,091	1,043	▲ 48	(5%)
ジェット燃料	126	139	▼ -13	(-9%)
灯油	64	75	▼ -11	(-15%)
軽油	678	571	▲ 107	(19%)
A重油	172	179	▼ -7	(-4%)
C重油	382	242	▲ 140	(58%)
合計	2,513	2,249	▲ 264	(12%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

7月28日時点の在庫は、灯油、軽油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては全ての油種で取り崩しとなった。

ガソリンは148.3万kl、前週差5.0万kl減。前年に対しては26.2万kl少ない。

灯油は170.4万kl、前週差8.4万kl増。前年に対しては15.4万kl少ない。

軽油は144.7万kl、前週差0.1万kl増。前年に対しては1.5万kl少ない。

A重油は74.2万kl、前週差0.0万kl減。前年に対しては4.0万kl少ない。

C重油は189.1万kl、前週差6.6万kl減。前年に対しては19.1万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (7/28)	前週 (7/21)	前週比	
ガソリン	1,483	1,533	▼ -50	(-3%)
ジェット燃料	1,011	1,058	▼ -47	(-4%)
灯油	1,704	1,620	▲ 84	(5%)
軽油	1,447	1,446	▲ 1	(0%)
A重油	742	742	▶ 0	(0%)
C重油	1,891	1,957	▼ -66	(-3%)
合計	8,278	8,356	▼ -78	(-0.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

7月24日から7月30日の原油価格は前週対比で値上がりし、為替レートの高高がこれをやや相殺したが、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、7月24日から7月30日までの間、ガソリン120～121円台でわずかに値上がり、軽油68円台で値下がり後横ばい、灯油67～68円台で値下がり後横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間でガソリン124円台でわずかに

に値下がり、軽油70円台で値下がり、灯油67～68円台でわずかに値上がりし推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン117～118円台で大きく値上がり、軽油69円台で横ばい、灯油66～67円台で値上がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、ガソリンの全取引で値上がりしたが、軽油は全取引で値下がりした。灯油は、陸上が値下がり、海上が横ばい、先物が値上がりと分かれた。

8月第1週(8月2日～8月8日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(7月24日～7月30日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.2円の値上がり、灯油は0.8円の値下がり、軽油も0.9円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.4円の値上がり、灯油は横ばい、軽油は0.5円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが1.1円の値上がり、灯油も0.8円の値上がり、軽油は1.2円の値下がりだった。原油価格は値上がりし、為替の高高がこれをやや相殺したが、原油コストは値上がりした。

8月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の値上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (7/24 ~ 7/30)	前週 (7/17 ~ 7/23)	前週比
レギュラー	67.0	66.8	▲ 0.2
灯油	67.5	68.3	▼ -0.8
軽油	68.3	69.2	▼ -0.9

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (7/24 ~ 7/30)	前週 (7/17 ~ 7/23)	前週比
レギュラー	64.7	63.6	▲ 1.1
灯油	67.3	66.5	▲ 0.8
軽油	69.0	70.2	▼ -1.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (7/24～7/30実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.2	▲ 1.1	▲ 0.7
灯油	▼ -0.8	▲ 0.8	→ 0.0
軽油	▼ -0.9	▼ -1.2	▼ -1.0
A重油	▼ -0.8		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上/バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

7月30日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円安の152.1円、軽油も同0.1円安の130.7円、灯油は同横ばいの92.9円(18%ベースでも横ばいの1,673円)だった。ガソリンは4週ぶりに値下がりしたが、10週連続で150円を上回った。軽油も5週ぶりの値下がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは11府県、横ばい11道県、値下がり25都府県だった。横ばいは、北海道ほか10県だった。

全国最安値は徳島県の146.0円(前週比0.1円高)、次が埼玉県147.9円(同0.3円安)、最高値は長崎県の160.9円(同横ばい)だった。最も値上がりしたのは、0.2円高の島根県(154.8円)・京都府(154.6円)・宮崎県(152.3円)・和歌山県(151.2円)、最も値下がりしたのは、0.9円安の愛知県

(149.7円)だった。

先週の原油コストは大きく値下がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに1.0～1.5円の値下げとなった。今週の原油価格は値上がりし、為替レートの高高がこれをやや相殺したが、原油コストは値上がりした。次週(8月6日)のガソリンの小売価格は小幅な値上がり予想される。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]	今週 (7/30)	前週 (7/23)	前週比	直近高値
レギュラー	152.1	152.3	▼ -0.2	08/8/4 185.1
灯油	92.9	92.9	→ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	130.7	130.8	▼ -0.1	08/8/4 167.4

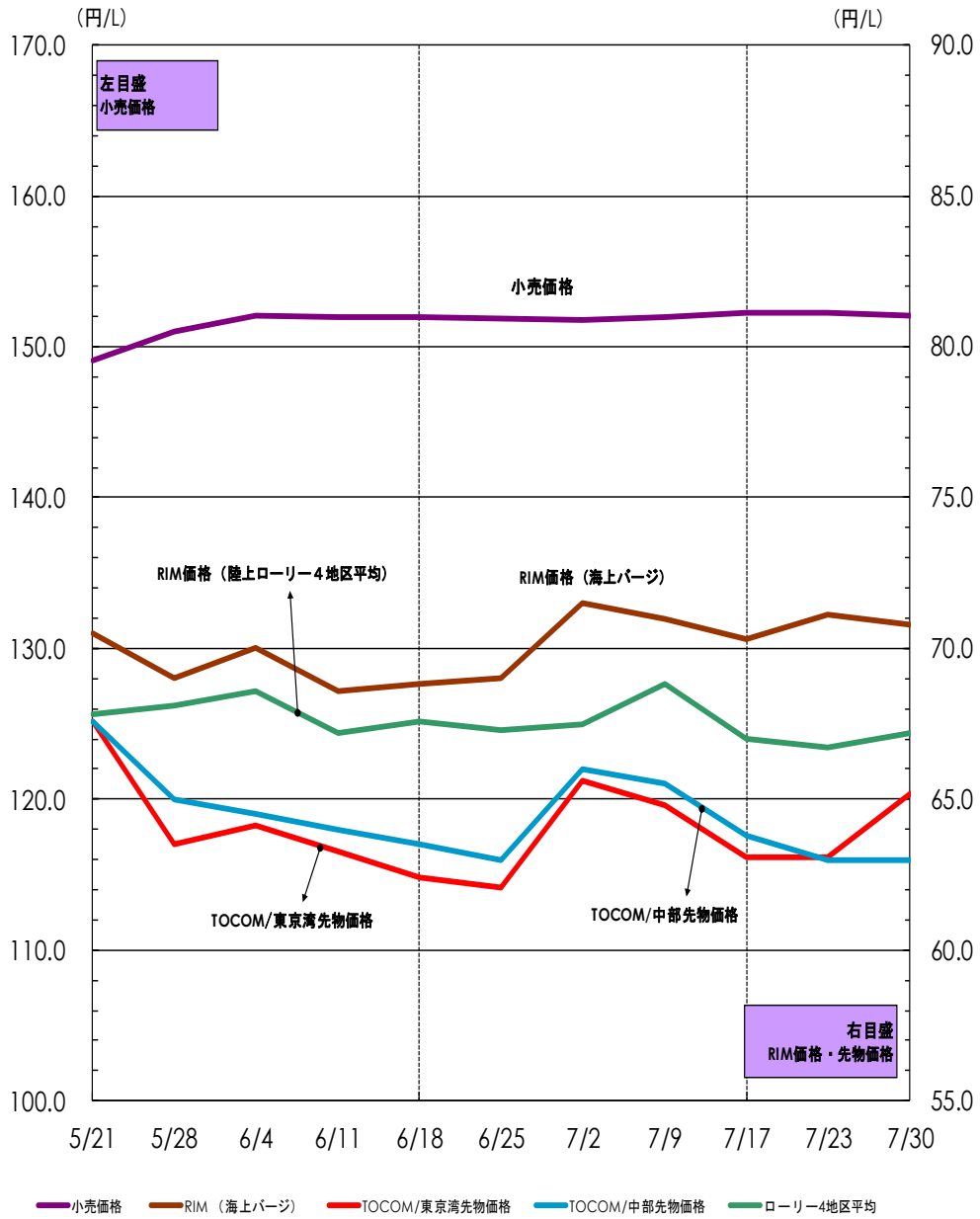
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/5/21 ~ 2018/7/30)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2018第18号) の公表は、8/10 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(平成30年3月末現在) は、7月31日 (火) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁-HPIに掲載)。